

水族館月報

No. 145

1964年9月

9月の入場者数

一 般		団 体		有 料 合 計	特 別 観 覧
大 人	小 人	大 人	小 人		
2 9.6 8 8	4 2 7	1 2.8 1 2	1 4 5	4 3.0 7 2	3 4 2

前年度比	1 9 6 3	1 9 6 4	増 減
入場者数	5 0.3 6 6	4 3.0 7 2	- 7.2 9 4

水族館記事

- ◎ 2日 「緑のかげセミナー」一行（応用化学関係者）40名来所。時岡助教授の講演「海産生物の行動と化学物質の関係」を聴講したのち、水族館を見学した。
- ◎ 3日 みさき公園自然水族館佐原・宮田両飼育係来所。塔島附近で潜水採集を行なった。両氏が持参してくれたマボヤ38個体、エボヤ12個体は、砂地のカニ類と交換したが、高温期の陸上輸送であつたため、全個体死亡した。
- ◎ 5日 海水取入管の清掃作業のため、午後は開放式各水槽が著しく濁つた。この濁りの中に有毒物が含まれていたのか、No.24水槽のウツボ類・ハタ類が全滅。死亡魚はいずれも鰓に粘液の異常分泌が認められた。他の開放式水槽の動物には異常がなく、No.24水槽でも他の魚種には死ぬものがなかつたところから、容量の大きい同槽では、有害な懸濁物が一時下層に停滞し、そのために底生の魚類が被害を受けたものと思われる。
今後このような事故を防ぐために、また、取入口の清掃作業や悪天候のときにも水槽が濁らぬように、旧館にも早く循環装置を併設することが切望される。
- ◎ 7日 雑賀崎一本釣漁師より、ヘラヤガラ（60cm）1個体が入槽。K水

槽へ収容した。普通の魚のように水平に泳ぐこともあるが、人工海草の茂みの中、またはそのすぐそばに、倒立静止していることが多い。このため、ほとんどの観客は、せつかくの珍魚の存在に気付かないようであった。ソウシハギの幼魚と同様の、見事な擬態といえよう。

- ◎ 17日 No.23水槽の内装小バット（15×10×10cm）に展示中の甲殻類・巻貝類は、夜間に脱出することが多かつたので、それらの小バットにガラス蓋を施した。その後、脱出個体はほとんど認められない。
- ◎ 23日 台風20号が四国を通過し、白浜地方も風速25mの大しけに見舞われたが、水族館施設には被害はなかつた。台風一過、急に気温が下り、熱帯魚槽には例年より早くヒーターを必要とするようになった。
- ◎ 29日 田辺市目良の漁師より、トゲヨウジ（20・22cm）2個体が入槽。T-7水槽に収容した。翌日より活小エビに餌付きし、元気である。
- ◎ 9月の動物入手概況

1. 採集作業

日時	採集場所	方法	人員	主な目的動物
1日午後	北浜沖暗礁	素もぐり	2	熱帯性小型磯魚
4 "	"	"	1	アオヤガラ
6 "	塔島東水道	SCUBA潜水	2	熱帯性小型磯魚
12 "	北浜沖の磯	"	3	"
15 "	"	素もぐり	1	"
18 "	"	磯採集	2	巻貝類
19 "	塔島東暗礁	素もぐり	2	トゲトサカ類
30 午前	塔島	磯釣	2	オヤビツチャ

前月にひきつづき、附近の磯には、熱帯性の魚類が豊富であるが、台風シーズンであるため、うねりの高い日が多く、採集成績は、あまり良くなかつた。

主な採集動物名（☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽）

無脊椎動物：タコクラゲ、オオトゲトサカ、キバナトサカ、カルエボシ、ソデカラツパ、スエヒロイボテガニ、サンゴハナガサウミウシ、☆サキシマミノウミウシ、エビスガイ、☆アヤメケボリダカラ、ヘソアキクボガイ。

魚類：アオヤガラ、ヒフキヨウジ、☆マルクチヒメジ、オジサン、ハクテンハタ、モンツキクマノミ、オヤビツチャ、☆セホシスズメダイ、☆アブラヤツコ、フウライチヨウチヨウウオ、☆ミゾレチヨウチヨウウオ、ツノダシ、レモンハギ、クロハコフグ、ハナミノカサゴ。

2. 購 入

秋の釣シーズンに入り、一本釣漁師からの入槽が多くなつた。エビ漕ぎ網からの底生動物は、引続き多数入槽中。

主な購入動物名

無脊椎動物：クマエビ，アカホシヤドカリ，コブカラツバ，テナガコブシガニ，ヒゲガニ，☆フタホシイシガニ，☆メナガガザミ，☆トガリマルガザミ，☆カズラガイ，☆タイコガイ，コウイカ，アカオニガゼ。

魚 類：サビウツボ，☆ヘラヤガラ，トゲヨウジ，カイワリ，カンパチ，イトヒキアジ，☆ヨメヒメジ，☆ヤセアマダイ，ルリハタ，キダイ，アオチビキ，オキゴンベイ，コウライトラギス，クロスズメダイ，カマスベラ，ホシテンス。

◎ 飼 育 概 況

9月30日現在，飼育中の動物は，総計446種2858個体以上で，その内訳は次の通り。このうち，観覧水槽に飼育・展示中の動物は437種2624個体以上。

カイメン類	1種	1個体	ゴカイ類	6種	16個体	イカ類	1種	2個体
ヒドロ虫類	1"	7"	カブトガニ類	1"	6"	タコ類	—"	—"
ハチクラゲ類	1"	3"	フジツボ類	3"	42"	ウミシダ類	3"	14"
ウミトサカ類	7"	19"	カメノデ類	3"	42"	ヒトデ類	6"	80"
ヤギ類	6"	44"	エビ類	14"	115"	クモヒトデ類	3"	17"
ウミエラ類	2"	4"	シヤコ類	3"	14"	ウニ類	16"	124"
イソギン チャク類	8"	40"	ヤドカリ類	10"	94"	ナマコ類	6"	31"
イシサンゴ類	9"	45"	カニ類	40"	317"	ホヤ類	3"	5"
ツノサンゴ類	1"	1"	アメフラシ類	2"	3"	軟骨魚類	5"	25"
ハナギン チャク類	1"	12"	二枚貝類	16"	216"	硬骨魚類	227"	1049"
ホウキムシ類	1"	1"	巻貝類	38"	424"	カメ類	3"	93"
			ヒザラガイ類	2"	4"			

資 料

9月の気象（午前9時観測）

才1水槽室（水温・比重はNo24水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：23	9	10	4
室温（°C）	$\frac{27.0 \sim 29.0}{28.4}$	$\frac{26.5 \sim 28.8}{27.7}$	$\frac{22.8 \sim 27.8}{25.0}$
水温（°C）	$\frac{28.00 \sim 29.14}{28.49}$	$\frac{27.48 \sim 28.46}{27.89}$	$\frac{24.52 \sim 28.20}{26.56}$
比重（15°C）	$\frac{23.61 \sim 25.26}{24.79}$	$\frac{24.83 \sim 25.47}{24.96}$	$\frac{23.82 \sim 25.04}{24.68}$

才3水槽室（水温）

H水槽（°C）	$\frac{27.9 \sim 28.7}{28.4}$	$\frac{27.4 \sim 28.3}{27.8}$	$\frac{24.2 \sim 28.3}{26.3}$
T-8水槽（°C）	$\frac{27.7 \sim 28.9}{28.5}$	$\frac{27.2 \sim 28.4}{27.8}$	$\frac{24.9 \sim 28.1}{26.7}$

海水取入口

水温（°C）	$\frac{28.26 \sim 29.20}{28.88}$	$\frac{27.38 \sim 28.84}{28.33}$	$\frac{24.38 \sim 28.70}{26.60}$
比重（15°C）	$\frac{24.68 \sim 25.11}{24.92}$	$\frac{24.86 \sim 25.18}{24.96}$	$\frac{24.81 \sim 25.26}{25.07}$

昭和39年10月15日(No.145)

編集兼発行者 市川 衛

発行所 京都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話(白浜)2047.3515